

湯沢南中生の考案デザート「南中コッタ」どうぞ

地元の老人施設に寄付



平山施設長（左）に南中コッタを手渡す生徒会長の松田さん

湯沢市の湯沢南中学校（高橋保志校長）は、同市関口の養護老人ホーム愛宕荘に、同市の菓子製造販売「くらた」と共同で開発したデザート「南中コッタ」80個を寄付した。

地元企業との協力事業や寄付活動を通して、新型コロナウイルス下の地域を盛り上げようと昨年度から行っている。

南中コッタは、地元の三関産サクランボを使ったフルーツソースをかけたパンナコッタ。昨年度、同校生徒が考案し、そのレシピを基にくらたが作っている。

2月28日、同校生徒会長の松田憲典さん（2年）と前生徒会副会長の畑山ほのかさん（3年）が愛宕荘を訪れ、平山悟施設長に南中コッタを手渡した。

平山施設長は「入所者は面会の制限があり、外出の機会もほとんどない状況。みんなでおしくいただき、元気をつけたい」と話した。（湊文香）

（令和4年3月7日(月)秋田魁新聞記事より抜粋）

湯上市・天王小 児童育てた米、大豆で製造・販売 みその収益で図書購入



購入する本を選んだ児童2人（左と高橋さん）

児童が育てた米と大豆でみそを製造・販売する学習に取り組んでいる天王小学校（湯上市、関谷美佳子校長）は、みその販売収益を活用して図書11冊を購入した。

本を選んだ図書委員の代表児童2人が3日、購入した本を関谷校長に手渡した。

2人はともに6年生の石井環さん、高橋舞さん。歴史や法律、理科についてイラストで分かりやすく解説しているものや、童話、絵本など幅広いジャンルをそろえた。低学年向けの本も意識して選んだという。

この日、校長室を訪れた2人は「自分たちで造ったみそのお金で買った本。後輩たちにもたくさん読んでもらいたい」と話した。関谷校長は「大切の読ませていただきます」と感謝を述べた。

天王小では3～6年生の総合学習の授業で米、大豆の栽培やみそ造りに携わっている。醸造には地元「三浦醤油店」が全面協力。6年生がデザインしたラベルを貼り、「風の子みそ」の商品名で2020年度から天王グリーンランド内で限定販売している。

三浦醤油店は原料代やラベルのデザイン費として売り上げの一部を学校に還元しており、それが今回の図書購入費に充てられた。卒業生でもある同店の三浦将人さん（46）は「子どもたちの頑張りがお金を生み、それが学校に還元される。児童と学校が一体になり、いい授業ができているなど感じる」と話した。（嶋崎宏樹）

（令和4年3月12日(土)秋田魁新聞記事より抜粋）